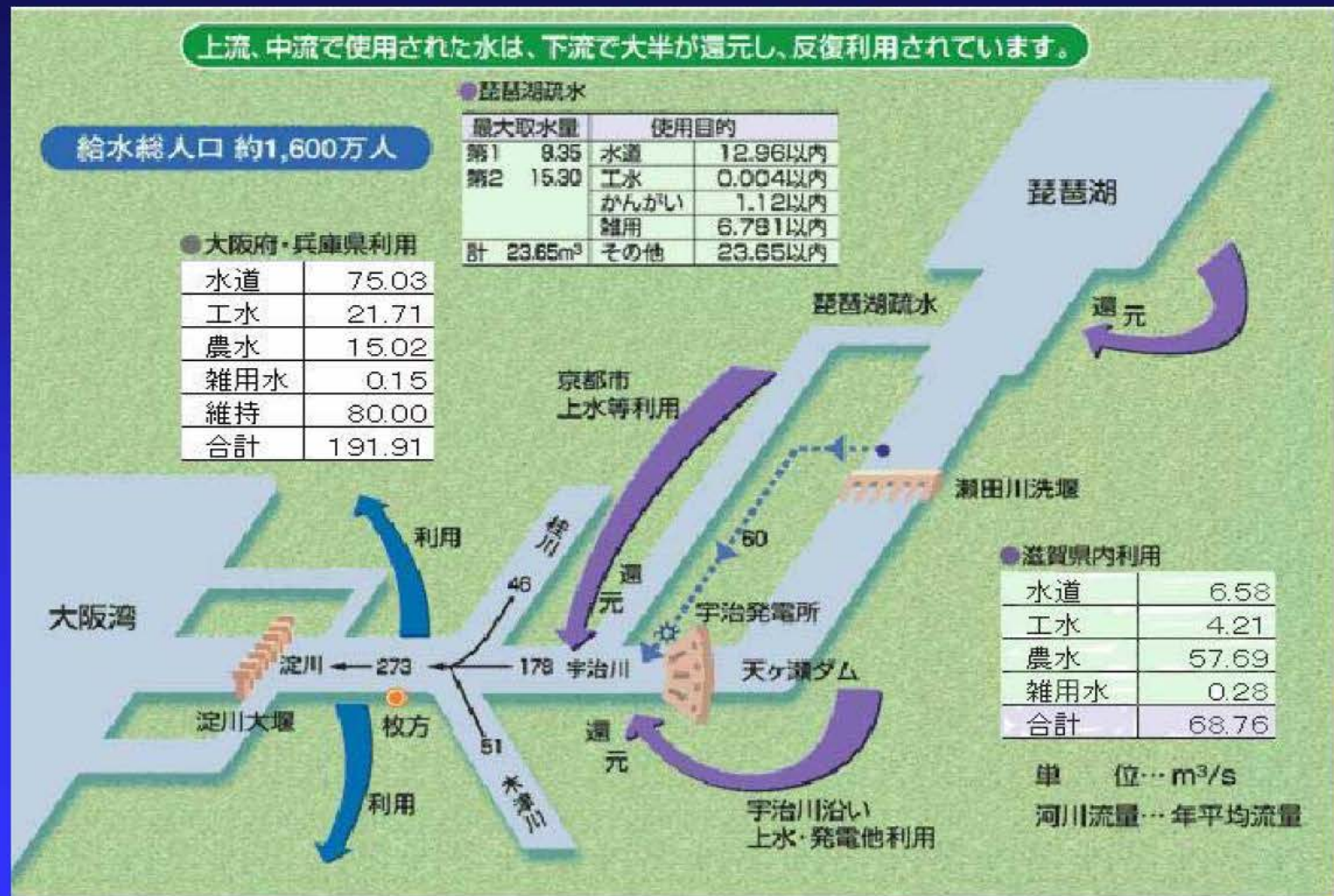


低水管理の現状

1. 水循環
2. 正常流量
3. 施設の操作
4. 渇水被害状況
5. 渇水時の調整
6. 既設ダムの効果

1. 水循環

用途別取・排水量



2. 正常流量

淀川の維持用水の起源は、淀川改良工事によって新川が開削され、旧淀川と神崎川の旧派川での舟運のための水保維持等のため、旧淀川 $110\text{m}^3/\text{s}$ 、神崎川 $27.8\text{m}^3/\text{s}$ を確保する計画が始まりました。

その後、社会状況の変化や施設の建設により、現在では**約 $80\text{m}^3/\text{s}$ の水量**を確保しています。

2. 正常流量

維持流量 (m³/s)

